

平成26年度学校評価報告書

学校名[国立市立国立第一中学校]

教育目標	「たくましい、心豊かな人間をめざして」次の目標を設定する。 1. 自ら学び、考え、自主的な行動をしよう。 2. 豊かな創造性を養おう。 3. 思いやる心をもちよう。 4. 健康な心身をつくろう。	重点目標	あたり前のことがあたり前になる「国中」の創造 1 確かな学力の向上 「できる」喜びのある学校 2 心の教育の充実 「思いやり」あふれる学校 3 特別活動の充実 「感動」のある学校					
目標	基本方針	指導の重点	具体的な方策	評価指標	実施状況	分析	改善策	評価委員より
1 でき 難 か な 専 門 力 の あ る 上 学 校	○教員の授業力向上を図る。 ○応用を生かせる基礎力の定着を図る。	○生徒の学力向上につながる教員の授業力向上を図る。 ○基礎基本、特に、漢字・英単語・計算を定着させる取り組みを実施する。 ○基礎力に欠ける生徒への手だてを行う。	○個々の教員が授業改善プランに基づき、自己研鑽に努める。 ○研究部による校内研修、校内OJT等により授業力向上に努める。 ○授業のめあてが提示されている。90% ○毎時間のながれが提示されている。90% ○主体的に考え、授業に参加している。70% ○漢字、英単語、計算を重点的に学習し、力がついたと思ふ生徒の割合を80%以上にする。 ○授業で学習している漢字、英単語、計算力に特化した課題を出し、課題確認テスト等を行い定着を図る。 ○定期テスト前の質問教室や長期休業中の補習教室を充実させる。	○生徒の授業評価アンケートの次の項目の1(大変そう思う)2(そう思う)の割合を一定以上にする。 ○授業のめあてが提示されている。90% ○毎時間のながれが提示されている。90% ○主体的に考え、授業に参加している。70% ○漢字、英単語、計算を重点的に学習し、力がついたと思ふ生徒の割合を80%以上にする。	B B	○①②ともに、すべての教科で90%以上にはなっていない。またすべてが1学期の数値を上回っていない。③についてはすべての教科で70%以上となっている。 ○各教員がアンケート結果から、自分の授業を振り返り、分析し改善案を出している。アンケートに関しては、より正確に状況がつかめるように、アンケートの聞き方の文章や答え方を改善していく必要がある。 ○校内研修では授業力向上を目指し、互いに情報交換し、研修に努めている。それを自身の授業力向上として、生徒の学力向上につなげるために、個々に授業改善推進プランのふり返しを行っている。 ○全国学力・学習状況調査結果から、基礎学力は多岐に比べ定着はしていると考えられるが、全員が満足できる力を持っていない。引き続き漢字、英単語、計算力の定着を目指す。 ○定期テスト前の質問教室や長期休業中の補習教室は実施しているが、夏休みと定期テスト前という時期に限られる。	○各教員がアンケート結果から、自分の授業を振り返り、分析し改善案を出している。アンケートに関しては、より正確に状況がつかめるように、アンケートの聞き方の文章や答え方を改善していく必要がある。 ○校内研修では授業力向上を目指し、互いに情報交換し、研修に努めている。それを自身の授業力向上として、生徒の学力向上につなげるために、個々に授業改善推進プランのふり返しを行っている。机上の空論に終わらず、実践をしていくことが必要となる。 ○質問教室や補習教室を実施してきたが、継続性をもたせていきたい。また基礎力の定着には時間がかかるが、個々にも対応する等、支援を続け少しでも多くの定着を図る。	アンケート結果に関しては概ね目標をクリアしており良いと想います。ただ、補習等によるついでにすることができず、増し生徒に対しての対策を、今以上に行ってほしい。
2 心 の 教 育 の 充 実 「 思 い や り 」 の あ ふ れ る 学 校	○感謝・思いやりの心を育てる教育活動の充実をさせる。 ○清掃活動の充実を図る。	○地域・保護者・学校・生徒と連携して、ボランティア活動を推進する。 ○清掃活動の充実を図る。	○スペシャルプランナー(仮称)を、7月前までに募集、組織化する。ボランティア活動の場(一橋大学前バス停留所の植栽事業、交通安全事業等)を設け、より多くの生徒にボランティアに対する意識と意欲を喚起させる。 ○清掃用具の充実を図り、生徒の清掃に対する意欲を喚起し、年に3回美化週間を設置する。	○「自分も地域・学校の一員であること自覚した」「自分もまた地域の方に支えられていることに気づいた」「自分を支えてくれる方々に感謝の気持ちを持つことができた」のどれかができたという生徒の割合を80%以上にする。 ○ボランティア参加率が150%以上にする。 ○「校内がきれいになった」割合を80%以上にする。また清掃活動に「取り組み」割合を80%以上にする。	B C B B	○スペシャルプランナーと生徒会でさまざまな活動に取り組むことができた。活動内容として夏季休業中のボランティア活動の募集、一橋大学前バス停留所の花壇に設置される看板作製、三小と共催交通安全事業、立川警察共済交通安全事業を行った。次年度も継続した取り組みを行っていき、生徒の意識と意欲を喚起していく。 ○ボランティア活動はボランティア体験活動は、いっかが行えたが生徒の意識が高まったのかは数値としてあらわさなかった。 ○美化週間は今年度、美化週間は2学期に2回行った。全校においては一部の生徒が、自主的に地域等の清掃活動を行う姿も見られるようになった。部活動での美化週間は、美化週間後も、体育館や校庭の倉庫等、継続して清掃や整理・整頓に心がけて活動しているため、生徒の意識づけに役立ったと思う。	○本能的にボランティアに対する考え方を改めたいと感じた。ボランティア体験を通して生徒が日々の生活のどの場面で体験活動で得たことを生かし、どのように意識や意欲が高まったかの調査をしていく。 ○定期的に美化週間を行うことは、生徒の清掃に対する意欲を喚起できるもので、今後も継続して行っていく必要性はある。	ボランティアに関しては確かに数字は高いが、本当の意味でのボランティア活動を振興させる取り組みを考えた方がよいのでは。挨拶や思いやりをもてる生徒が増えていることは良いことで、これからも力を入れていってほしい。
「 い じ め の な い 学 校 」 を つ く る。	○「いじめのない学校づくり」を創造するため学校全体(教員、スクールディ、生徒会)で取り組んでいく。 ○いじめ防止プログラムの実施(1年生)、スクールバディの取り組みを活性化させる。 ○道徳・学活を活用(学期に1回は全校で統一実施)する。生徒全員が「いじめ撲滅標語」作り、それを元に美術部作成のいじめ防止ポスターを校内に掲示し、いじめ防止を発信する。	○日頃より教員間の連携をとり、いじめの早期発見につとめる。また、「ふれあい月間(6月・11月・2月)」で「いじめ調査」を年3回実施し、実態を把握、共通認識を解決に取り組む。 ○いじめ防止プログラムの実施(1年生)、スクールバディの取り組みを活性化させる。 ○道徳・学活を活用(学期に1回は全校で統一実施)する。生徒全員が「いじめ撲滅標語」作り、それを元に美術部作成のいじめ防止ポスターを校内に掲示し、いじめ防止を発信する。	○「仲間がいやがる行動や態度を慎もうという気持ちを持てた。」という生徒を90%以上にする。 ○「いじめを怖れやした。」という生徒を見て、いじめを見て見ぬふりをした。をそれぞれ10%未満にする。	B B	○1年間の調査結果で「仲間がいやがる行動や態度を慎もうという気持ちを持てた。」という生徒を90%以上となっている。 ○「いじめを怖れやした。」という生徒を見て見ぬふりをした。をそれぞれ10%未満となっている。 ○東京都教育委員会企画のDVD等を活用した学活を行った。生徒が夏季休業中の宿題として「いじめ撲滅標語」を作成した。また、NHK番組「いじめはノックアウト」の行動宣言に応募した。 ○スクールバディの活動は継続して行っている。また、いじめだけに係わらず相談に応じることを生徒会集会で呼びかけを行った。	○いじめ防止についての対策は、いじめ防止プログラム(1年)、「いじめに関する授業」の実施、東京都教育委員会制作の教材ビデオを活用した指導、生徒を主体とした活動(生徒会集会、スクールバディ)、教職員の研修を計画的・継続的に進めていくことが考えられる。また、スクールバディが1年生で22名となり、1・2年で今後どのような活動を行っていくかの運営について教員が協議し、生徒に継続して指導する。	いじめ防止プログラムが2年目を終了し、全校生徒に「いじめはいけない事という意識が浸透していることはよい。来年で全学年が、受講することになり、個体しています。	
3 感 動 一 別 の 活 動 の 充 実 校 外	○各行事で、実行委員会を中心に、生徒主導で練習をしたり、運営することで、生徒の行事参加や行事成功への意欲を高める。	○校外学習(1,2年)修学旅行(3年)では、実行委員会をはじめ、班長の働く場面を増やし、生徒主体で運営をさせる。 ○合唱コンクールでは、各学級で取り組み目標を決めた上で、実行委員会に練習計画を立てさせ、実行委員・パートリーダー・指揮者・伴奏者等が中心に練習を進める。	○生徒へのアンケート調査で「クラスや学年で協力し行事を成功させよう」と取り組むことができた。「実行委員の取り組みが行事を成功に導いたと思う。」との回答率が80%以上になる。	B A	○校外学習、修学旅行では実行委員会を中心に生徒が主体的に動ける場面を設定し、各学年で教員が支援を行えた。合唱コンクールでは「クラスや学年で協力し行事を成功させよう」と取り組むことができた。との回答率が80%以上になった。生徒が主体的に運営することに対して、教員が支援を行えた結果であると考えられる。	○各行事とも、各学級で取り組み目標を決めた上で、実行委員会が練習計画を立て、生徒主体で練習や計画を進行し、教員が支援することが成功に導いているので今後も継続していく。	学校行事に関しては、どの取り組みも、充実しており意欲的に生徒が参加できている。	
4 健 全 な 心 身 の 育 成 を 図 る。 そ の 他	○学校生活において自己の健康の保持増進について考えることができるようにする。	○昼休みに校庭で運動をする生徒の割合が増加するよう、各学級にボールを配布し、外で元気よく運動できるようにする。 ○体育大会・合唱コンクールで保護者へ「食育」についてお知らせを行い、栄養のバランス等について考えていただけるようにする。	○昼休みの校庭で運動する生徒が最大、全校の約3分の1にあたる150人となるようにする。	B B	○健康の保持・増進に努めるよう呼びかけをした結果、最大値の150人近くが校庭に出て、元気に運動をする場面があった。 ○「お弁当の日」と題して合唱コンクール前に保護者へお知らせを行った。	○健康の保持・増進に対しては定着をさせてきているので、継続して取り組めるよう声掛けを続けていくが、各学級に配布するボール以外に、生徒がより運動を積極的に行えるよう、ボールの種類も変える等工夫をする。 ○実際に保護者が「食育」について考えていただけたか学校評価等で調査する必要がある。	健康の増進のために、様々なことをしており、引き続き継続して生徒に、意識を持たせてもらいたい。	